

# 保育者へのアプローチ—弾き語り曲でピアノの基礎を学ぶ—

井出 美佐子

## 1. はじめに

保育の養成校で長年ピアノの指導に当たりながら、初めてピアノに触れる二十歳近い（もしくはそれ以上の年齢の）学生を僅か 2 年の間に「歌って弾くピアノ」まで持っていく確証が見いだせないままである。もちろん我々指導者の力不足が原因であるが、それまでに彼らが受けてきた音楽教育に技術面だけでなく、理論に於いてもばらつきがあり、それがますます時間を有効に使いにくくする原因のように思えてならない。

ただ、入学時にピアノに対して不安を感じている学生たちが学習意欲を持って、授業に臨もうとしていることは明白で、それを妨げているのは、ピアノの基礎の勉強に大きな影響力をもたらす教則本の用い方に依るものではないかと常々感じていた。本校の場合はバイエル教則本を使用しているが、抜粋した練習曲のひとつずつの練習目的が、近い将来保育者として必要になる技術に直結しているかと云えば、時期尚早のものや、ただ自信喪失に繋げている内容のものも少なくない。

ピアノに対して苦手意識を持った学生たちが言う「ピアノを弾かなくても済む職場に就職したい」を一人でも減らしたいことが今回の試みに繋がっている。

## 2. 一般的に使用されるピアノ教則本

オムツが取れるか取れないかでピアノを始める子どもも決して珍しくない時代になり、導入本も非常に豊富である。そんな中でも楽譜売り場でのバイエル教則本のスペースは健在で、それを見かける度に改めてバイエルの凄さを思い知らされるが、中盤まで上段も下段もト音記号の大譜表が続くという難点を抱えながらも、曲の編成が短いことや、調性ごとにまとめられている点が、支持者が減らない理由とも考えられる。

幼児を対象とした教則本の導入方法の概要をまとめてみた。

テキスト	導入方法	展開方法
マイクロコスモス	大譜表でユニゾン進行 2分音符と全音符で構成 4分の4拍子・ハ長調	平行進行→反行進行→カノン様式
ピアノの学校 コダーイ・こどもの音楽教育	遊びうた 五線のみ 4分音符と8分音符 4分の2拍子	中央のドを中心に音域が広がる 反行進行→平行進行→カノン様式→ペンタコード

バスティン 幼児のためのベーシックス	音符と小節線 4分音符と2分音符 4分の4拍子	五線が抜かれているために音を相対音高で判断する。大譜表でも同様に行われる→拍子記号→ト音記号→ヘ音記号と続き、完成形になる
-----------------------	-------------------------------	---

### 3. バイエルと対応する弾き語り曲の内容の比較

楽器（音楽）の練習は内容の違いもあるが、長く時間をかけることが視覚、聴覚、そして使う筋肉に対して重要であり、できれば期間など設けずに繰り返すことが最良である。しかし残念ながら現状は課題曲を終わらせるために「次の曲に進む」ことに学生も教師も集中している。

ではどうしたら課題曲も終了し、なおかつ長く練習が続けられるか…。

時間のない彼等が課題曲だけのものとして時間をかけるのではなく、今後も実習や現場で幾度となく繰り返されるものを課題曲として提供することが得策に思えてならない。

ただ「ピアノ基礎」という授業内容からできるだけ逸脱しない範囲で、弾き語りの作品を使用することには、幾つかの問題点を含む。

- \* 弾き語りの作品は練習曲（練習の目的が明確で、それにより曲が構成されているもの）として作られていないために、原曲のままでは用い難く、それ故に編曲を必要とする。
- \* 弾き語りの作品の原調は主にヘ長調、二長調、ハ長調、ト長調であるため、調性的に偏りが生ずる。
- \* バスティンピアノメソッド以外にも、トンプソンピアノ教本でも中央のドを中心に上下に音域を広げていく方法で、大譜表の読譜を習得させているが、弾き語りの作品から該当する曲は見つけ難い。

現在、本校が課題曲としているバイエル教則本の練習番号の抜粋と、一例に過ぎないが、その目的に該当する弾き語りの作品を表にするとこのようになる。

練習番号	主な練習内容	調	対応する弾き語り曲	習得できる技術	調	譜例
3-7	音符と休符	ハ	かえるの合唱	4分音符・8分音符 ト音記号・ヘ音記号	ハ	譜例1
11	平行進行	ハ	サンタクロース	ヘ長調	ヘ	譜例2
29	タイ	ハ	大きなうた	タイ・カノン様式	ヘ	譜例3
48	付点4分音符	ハ	かたつむり	付点4分音符	ハ	譜例4
54	休符	ハ	イルカはザンブラコ	4分の3拍子・休符	ヘ	譜例5
音階	運指	ハ				譜例6
70	3度進行	ト	キラキラぼし	3度進行 アルベルティ・バス	ハ	譜例7

72	分散形	ト	チューリップ	分散形	へ	譜例 8
80	半音階・前打音	ニ	ぼくのミックスジュース	半音階・3連符	ニ	譜例 9
			いぬのおまわりさん	前打音・平行進行	ニ	譜例 10
85	3連符・タイ	へ	さんぽ	タイ	ハ	譜例 11
88	付点8分音符	ト	こおろぎ	付点8分音符	ハ	譜例 12
96	8分の3拍子	へ	ミッキーマウスマーチ	8分の6拍子	へ	譜例 13
97	重音	ハ	やまのおんがくか	重音	ト	譜例 14

編曲するにあたり、注意した点が幾つかある。

- \* バイエル教則本以外の導入本に倣い、最初から大譜表を用いた。
- \* 音符はバイエル教則本の全音符→2分音符→付点2分音符→4分音符を止め、他の教則本に倣い、4分音符→2分音符→8分音符とした。
- \* バイエル教則本で扱うアーティキュレーション、発想記号、反復記号を弾き語り曲に取り入れた。
- \* 一般的なピアノ演奏に必要な技術であっても、『こどものうた』に登場しないものは省略し、(手の交差・加線譜等) 弾き語りで必要となる技法(グリッサンド・トレモロ・シャッフル等)については今回は触れないこととした。
- \* 調性は作曲者の意向を重視し、一部の作品を除いて原調を用いた。
- \* テーマに集中させるために、その他の部分をできるだけ簡素化した。
- \* 弾き語りの作品ではあるが、ピアノ基礎として練習するために歌詞は入れていない。
- \* 運指も一部を除いて、記譜を避けた。



(音階)

譜例5

(大きなうた)

譜例3

(かたつむり)

譜例4

(イルカはザンブラコ)

譜例5



13



(キラキラぼし)

譜例7



(チューリップ)

譜例8



(ぼくのミックスジュース)

譜例9

The first system of musical notation consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 4/4 time signature. It contains a melodic line with eighth notes and rests, featuring three triplet markings (indicated by a '3' over the notes). The lower staff is in bass clef with the same key signature and time signature, providing a bass line with eighth notes and rests.

The second system continues the piece with two staves. The upper staff features a melodic line with eighth notes and rests. The lower staff continues the bass line with eighth notes and rests.

The third system continues with two staves. The upper staff has a melodic line with eighth notes and rests. The lower staff continues the bass line with eighth notes and rests.

The fourth system concludes the piece with two staves. The upper staff has a melodic line with eighth notes and rests. The lower staff continues the bass line with eighth notes and rests. The system ends with a double bar line. There are some changes in the lower staff's rhythm and dynamics towards the end of the system.

(犬のおまわりさん)

To Coda

譜例 10

Musical notation for Example 10, measures 1-4. Treble and bass clefs, key signature of two sharps, 4/4 time. Dynamics include *mf*.

Musical notation for Example 10, measures 5-8. Treble and bass clefs, key signature of two sharps, 4/4 time. Dynamics include *mp*.

Musical notation for Example 10, measures 9-12. Treble and bass clefs, key signature of two sharps, 4/4 time. Dynamics include *mf*.

Musical notation for Example 10, measures 13-16. Treble and bass clefs, key signature of two sharps, 4/4 time. Dynamics include *mp* and *p*.

Musical notation for Example 10, measures 17-20. Treble and bass clefs, key signature of two sharps, 4/4 time. Dynamics include *mf* and *D.C.*

(こおろぎ)

譜例 2

Musical notation for Example 2, measures 1-4. Treble and bass clefs, key signature of two sharps, 3/4 time.

Musical notation for Example 2, measures 5-8. Treble and bass clefs, key signature of two sharps, 3/4 time.

(さんぽ)

March Tempo

例 1 1

Musical score for 'さんぽ' (March Tempo) in 4/4 time. The score consists of five systems of piano accompaniment. The first system includes a treble and bass clef. The melody is primarily in the treble clef, featuring eighth and quarter notes. The bass line provides a steady accompaniment with quarter and eighth notes. The piece concludes with a double bar line.

(やまのおんがくか)

例 1 4

Musical score for 'やまのおんがくか' in 2/4 time with a key signature of one sharp (F#). The score consists of three systems of piano accompaniment. The first system includes a treble and bass clef. The melody is in the treble clef, featuring eighth and quarter notes. The bass line provides accompaniment with quarter notes. Dynamics markings include *mf* (mezzo-forte) and *p* (piano). The piece concludes with a double bar line.



例 3 (ミッキーマウスマーチ)

Example 3 is a piano accompaniment for the 'Mickey Mouse March'. It is written in 3/4 time and features a key signature change to B-flat major. The score consists of five systems of two staves each (treble and bass clef). The first system is marked with a treble clef and a key signature of one flat. The second system is marked with a bass clef and a key signature of one flat. The third system is marked with a treble clef and a key signature of one flat. The fourth system is marked with a bass clef and a key signature of one flat. The fifth system is marked with a treble clef and a key signature of one flat. The score includes a key signature change to B-flat major (indicated by a double sharp sign) and a dynamic marking of 'D.S.' (Da Capo).

#### 4. おわりに

保育士の採用試験のひとつに「初見」がある。ピアノを弾く技術だけでなく、理論と普段の練習量が問われることになるため、ピアノの経験者でも苦手としている。

ピアノの経験がない学生にとって、抵抗なく練習に入っていけることが読譜力をつける最良の方法であるため、まずは教材を分かりやすくする必要があるが、もう一方で、現場で不自由なくピアノを弾くには、常に「楽譜を見ること」も必要となる。

学生は繰り返し練習していくうちに楽譜を見ようとしなくなり、試験等の発表の場も「楽譜を見ること」とは無関係と思うようになる。

教材を選びながら、試験方法も改善する時期にきていると感じた。